



石田 直之(いしだ なおゆき)さん 35歳  
写真館イシダスタジオ(創業昭和12年)の三代目として生まれる。バレーボールスポーツ推薦で大学進学。大学4回生の12月に父が病に倒れ、卒業と同時に帰省。1994年イシダスタジオ就職。2006年8月に「ism」オープン。「カジュアルフォト」という分野で脚光を浴び、近年では写真館業界での講演・講師としても全国で活動。NHKでも取り上げられる。

フォトスタジオ ism(イズム)  
姫路市本町68番地 本町商店街 ☎079-281-1929

成人式や七五三など、人生の節目に記念写真を「写真館」で撮ってもらう。デジタルカメラが普及し、誰もが簡単に写真を撮れるようになった現在、その風習さえも薄れつつあります。そんな「写真館」離れに「カジュアルフォト」という新たな分野を開拓し業界に新たな潮流をまきおこしているのが、フォトスタジオ「ism(イズム)」の若き経営者でありカメラマンの石田直之さんです。話題の「カジュアルフォト」や写真への思いを聞きました。



今 harima imagin

この人の輝きを知りたい

フォトスタジオ ism 代表カメラマン

石田直之さん vol.17

日常感覚で、輝きを写し取る「カジュアルフォト」

どこにでもありそうな普段着での家族の触れ合い。そこにあるのは飾らない笑顔。それが石田直之さんの写す「カジュアルフォト」。「写真館で撮る写真のイメージで、決まったポーズで、表情もつくっている感じがしていたんです。本当は日常の中に、幸せな瞬間がたくさんあって、そのときの

表情ほど素晴らしいものはない。それを知って欲しくて始めたのが、今のスタイルなんです。」  
撮影は、雑貨店と見聞違うようなおしゃべりなお店の中、周辺の町中や公園、周遊の町中や公園、よくにポーズやシャッターチャンスは決まらず、いつもと遊んでもらい、デジカメでパチパチと

「写真屋は継がない」それが、いつのまにか三代目に

石田さんは、二代として病気が良く続く写真館の長男として生まれました。しかし、写真には全く興味がなく大学時代までスポーツに明けくれ、卒業後の進路もファッション関係が希望だったとか。「写真館は父サイトと子どもの頃から思っていました。当然家業を継ぐ気もなかったのですが大学4回生のときに親父が病で倒れ、ししぶ手伝うことになりました。

「その草分け的な存在の方と出会い、写真館で撮る写真のイメージで、決まったポーズやシャッターチャンスは決まらず、いつもと遊んでもらい、デジカメでパチパチと

自分にとって大切な「家族」がテーマに見えてきた

その頃、結婚して子どもが生まれ、生活面でも変化の時を迎えていた石田さんは、家族で過ごす時間を大切さを痛感するようになっていた。しかし、土日はウエディングの仕事で店と家を空けることがほとんど。スタジオでの家族写真も断ることにストレスを感じはじめました。そんな中で「自分にとって大切なもの。『家族』をテーマにしたい」という思いが強くなっていったそうです。



↑「家族で服装を統一してください」それが、石田さんからお客様に出される一つの注文。「そこから始まるコミュニケーションも楽しんでほしい」。そうして迎える撮影では、それぞれの家族の個性がより鮮明に写し出されています



↑平均50カット程を撮り、スライドショーにして見せてくれる。これがまた感動。その中から好きなものを好きなだけ選ぶシステム

「幸せ」な瞬間に囲まれていることを、改めて石田さんの写真が伝えてくれているような気がしました。